

速報 これがインターネットエクスプローラ4.0だ

Internet Explorer 4.0

今後のウィンドウズの方角性を決めるキーテクノロジーになるともいえる次世代WWWブラウザ、インターネットエクスプローラ4.0のプラットフォーム・プレビュー・リリースが公開された。米国では4月8日に英語版が発表され、これに引き続き、4月14日に日本語版も公開された。ここでは、ファイルの合計サイズが20Mバイトを超えるこの巨大なプロダクトのあらましを見ていくことにしよう。

山田祥平

WebPC

ついに姿を現した次世代インターネット統合環境

インターネットエクスプローラ4.0は、インターネットとデスクトップの統合環境である。「WebPC」の提供を基本コンセプトにした次世代インターネットクライアントである。従来のWWWブラウザの枠組みから大きく飛躍し、パーソナルコンピューティングの根本的な操作性を変えてしまう可能性のあるプロダクトだ。

マイクロソフトは、インターネットエクスプローラ4.0を、最良のWWWブラウザとしてアピールする。現行バージョンである3.02をはるかに凌駕するさまざまな機能性、そして使い勝手の向上は、1つ1つがそれを語っている。

しかも、ブラウジングだけではなく、コラボレーションやメッセージング、ブロードキャスト受信、オーサリングからパブリッシングまでをすべてサポートするべくそろえられたモジュール群は、それぞれが緻密に連携し、ある種のスイートを構成している。さらには、ウィンドウズそのものとも融合を果たし、この環境が同社のスローガンであるInformation at Your Fingertips（指先に情

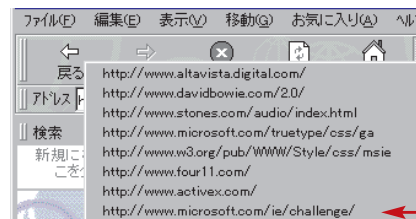
報を）を実現するための次のステップ、「WebPC」として姿を現したわけだ。

そういう意味では競合製品に位置づけられるプロダクトは、まだこの世にはない。しかし、従来の枠組みの中でWWWブラウザとしての機能だけをとって、エクスプローラ4.0の進化には注目に値するものがある。このページの画面は、新しいエクスプローラから特に注目すべき機能をいくつか拾い上げたものだが、当然、これだけのスペースに収まるはずもなく、4.0の奥の深さを改めて感じる。

ちなみに、マイクロソフトは、今回のリリースはデベロッパーおよび企業のITマネージャー向けのものであると断言し、プロダクト全体がまだテスト段階にあることを警告として強く主張している。ホワイトペーパーに掲載されている機能の中でも、まだ実装されていないものが目立つ。同社のホームページから誰でも自由にダウンロードできるものの、製品版の出荷は今年末になるようだ。とはいうものの、マシン環境がガロガロになることを覚悟してでも、セットアップをしてみようかという気にさせられるプロダクトである。



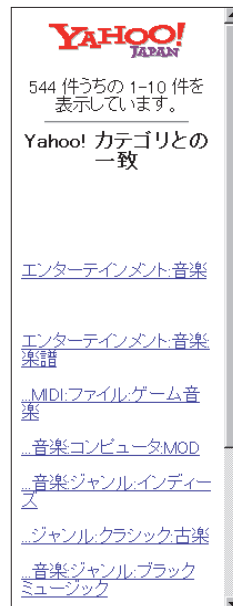
① ウィンドウ左上のコントロールアイコンをデスクトップやフォルダーにドラッグすることで、ショートカットを作れる。エクスプローラ2.0でウィンドウ右下にあった地球儀アイコンの復活に近い機能だ。



② 戻る、進むボタンを右クリックすると、移動できるURLがポップアップでリスト表示される。その中から本当にジャンプしたいURLを選択することで、スピーディーにページ間を行き来できる。



③ アドレスを手入力する際には、オフィス97でおなじみのオートコンプリート機能が働き、過去に参照したURLをもとに自動入力が行われる。



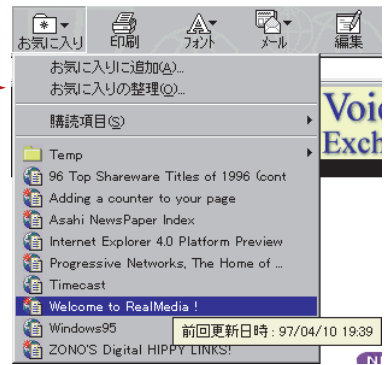
④ 検索ボタンをクリックすることで、検索ページがフレームとして呼び出される。検索結果が数多くあっても、それがそのまま画面に残るため、本当に探しているページを見つけやすくなった。

NEW

ここまで進化した最良のWWWブラウザ
8つの最新機能

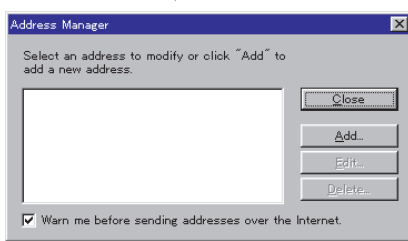
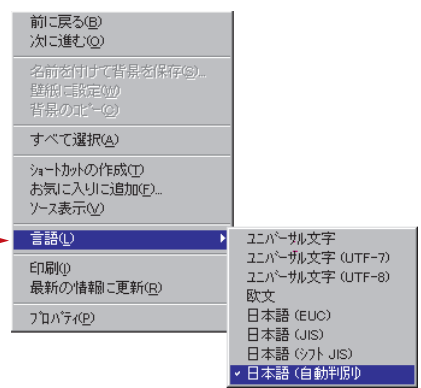
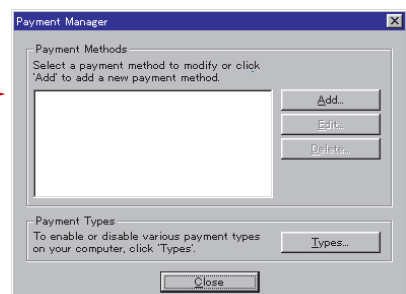
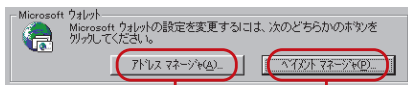
オフラインでアドレス帳
閉じる

5 ファイルメニューにはオフライン接続が項目として加わった。これを選択することで、キャッシュ内のデータを使っでのブラウズが可能になる。お気に入り管理や購読のスケジュール設定と組み合わせれば、インターネットと隔離された移動中などにもゆっくりとブラウジングが楽しめる。



23:12

6 「お気に入り管理」の機能が、設定したスケジュールによって全ページの更新チェックを自動的に行い、必要に応じてデータをダウンロードする。前に訪れたときよりも新しいページは赤いマークで知ることができるので、効率的なサイトの訪問が可能になる。また、「購読」という概念が新たに加わり、特定ページを定期的にチェックして、タスクバー上のアイコントレイにその更新をインジケートしてくれる。また、従来は単に文字コード順に並んでいたお気に入りリストは、ドラッグ&ドロップの操作で自由な順序に並べ替えができるようになった。



7 クレジットカード番号や銀行の口座番号、運転免許証ID、各種パスワードなど、プライベートな情報を一括して保管できるMicrosoft ウォレット。

8 ウィンドウの右クリックで表示されるコンテキストメニューには、戻る、進むなどが加えられたほか、言語の切り替えもできるようになった。



（ WWWブラウザとデスクトップの統合
—— 3つの新しい顔を初公開 —— ）

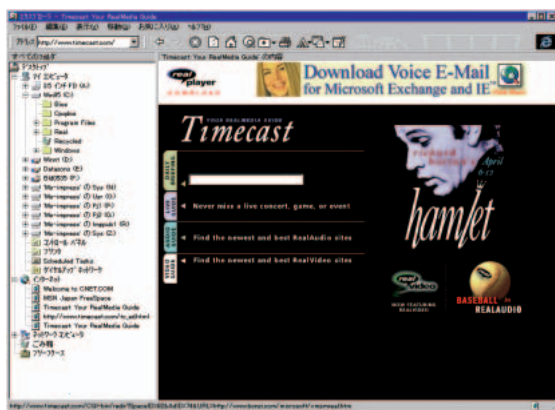
NEW Activeデスクトップ

Activeデスクトップは、ウィンドウズのデスクトップにWWWブラウザの機能を持たせてしまった。ちょうど壁紙を選ぶかのように、デスクトップ上に表示させたいURLを指定することができ、15分に一度更新といったスケジューリングをすることができる。ニュ

ーページなど、1日に何度もアクセスする更新性の高いサイトを指定しておけば、常に最新のニュースがデスクトップに表示されることになる。これは、専用線でインターネットに常時接続された環境でこそ威力を発揮する機能だ。メニューバーやツールバーこそな

いものの、矩形内はエクスプローラそのもので、リンクスポットのクリックで他のページへの移動も可能だ。右クリックによるコンテキストメニューやショートカットキーなどで操作すれば快適だ。

NEW シェルとWWWブラウザの統合



ウィンドウズエクスプローラに表示されたウェブページ

インターネットエクスプローラ4.0のセットアップには、シェル統合モードとWWWブラウザオンリーという2つのモードが用意されている。前者を選んだ場合には、ウィンドウズユーザーインターフェイスがウェブ風になり、マイコンピュータやエクスプローラで参照するアイコンの一覧は、ウェブページそのものになる。各フォルダのページの見え方はカスタマイズが可能で、フォルダごとに任意にデザインできる。また、従来はダブルクリックで行ってきた開く操作も、ウェブページのリンクスポット同様にシングルクリック操作でできるようになる。インターネット上のリソースと、ローカルのコンピュータ上のリソースを、まったく同じ操作で参照できるようになるのだ。これこそ、WebPCのコンセプトを明確に表している機能だ。

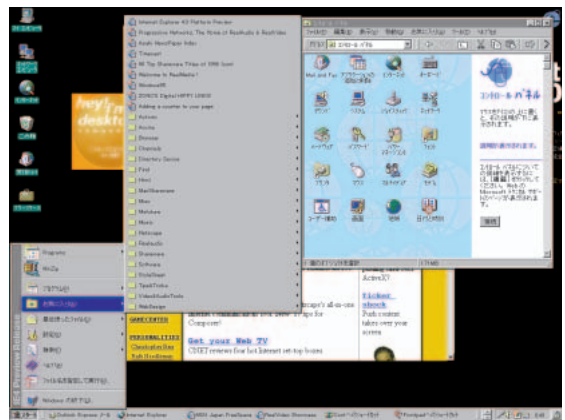


Activeデスクトップに埋め込まれたcnetのホームページ

NEW タスクバーからウェブアクセス

2 3

特に注目したいのがタスクバー。スタートメニューにはお気に入りが増え、起動中のウィンドウがボタンとして並ぶ従来のエリアに加えて、ペルトと呼ばれる新しいエリアを任意に追加設定できるようになった。ここには、関連モジュールの呼び出しボタンや、特定のURLなどを置いておくことができる。オフィス97のクールバーと同様に、タスクバーからの切り離しも可能で、独立して画面の上下左右任意の位置に



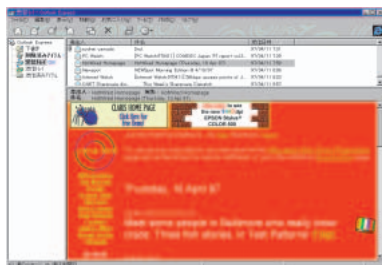
スタートメニューに追加された「お気に入り」

置けるほか、フローティング状態にさせることも可能だ。また、右端に見えるデスクトップボタンを押すと、そのとき開いているウィンドウを瞬時に隠し、デスクトップがすべて見える状態になる。

インターネットエクスプローラ4.0には多くのコンポーネントが含まれる。電子メール、ホームページ作成、マルチメディアと、これだけでインターネット環境はすべてそろってしまうと言っても過言ではない。ここでは、その中でもひととき目立つ6つの優れたコンポーネントを一挙に紹介しよう。

インターネット環境がすべてそろった
6つのベストコンポーネント

アウトルックエクスプレス



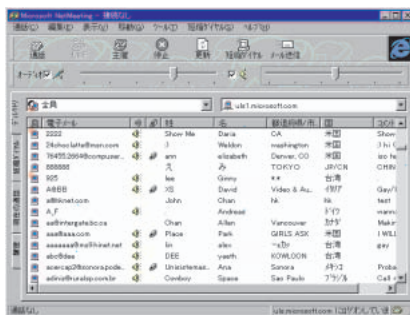
1 電子メールとインターネットニュースグループを読み書きできるメッセージクライアント。LDAPやS/MIMEなどに新しく対応した。さらに、NNTP、POP3、SMTPなどのほか、IMAP4もサポート。サーバー環境さえ整っていれば、クライアントを選ばずにメールの読み書きが可能だ。複数のメールアカウントを指定し、一度の操作でそれぞれのサーバーからメッセージの配信を受けることもできる。オフィス97のアウトルックのサブセットではあるが、現時点では機能的にこちらのほうが高度だと言える。ちなみに、本家のアウトルックは、エクスプレス版の機能をすべてサポートするべく作業が進められていて、最終的にはスーパーセットとなる予定だ。

ネットショー



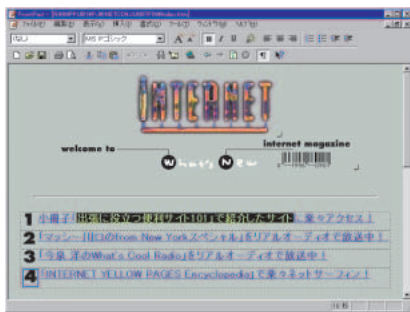
4 ActiveXコンポーネントとして提供されるマルチキャスト対応のクライアント。

ネットミーティング



2 オーディオはもちろん、ビデオ会議にも対応した。ITU T.120、H.323などの標準的な規格に準拠し、他社製の互換製品と接続して通信することもできる。

フロントパッド



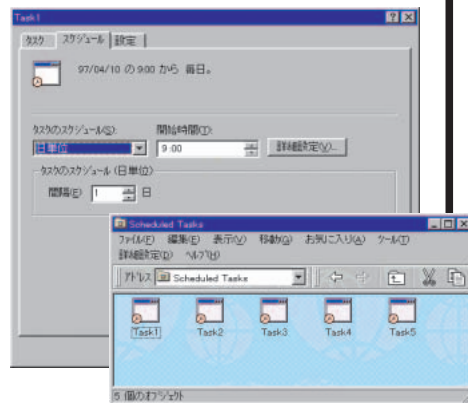
3 単独パッケージとして提供されているフロントページの簡易版。フレームの編集やクリッカブルマップの作成などの機能が省かれているが、その他の部分はフロントページとほぼ同等。将来のバージョンでは、パーソナルホームページウィザードによって、自分のホームページをインスタントに作成できる機能が実現される。

ActiveXコントロールビューアー



5 エクスプローラ4.0がダウンロードして組み込んだActiveXコントロールは、ウィンドウズフォルダーの中の「Downloaded ActiveX Controls」というフォルダーに保存される。このフォルダーは、Historyなどと同様に特殊なフォルダーとして認識され、次のバージョンでは、プロパティを参照することでさまざまな情報が得られるようになる。

スケジュールタスク



6 マイコンピュータ内にはスケジュールタスクというアイコンが新登場。Microsoft Plus!で提供されていたスケジュールリングによるプログラムの自動実行機能が拡張されたものだ。



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp